

兵解協だより

第51回中部・近畿ブロック合同会議が名古屋市で開催されました。

令和4年11月16日(水) pm3:00から、名古屋市 JR ゲートタワー16階「カンファレンスの間」で、第51回中部・近畿ブロック会議が開催されました。参加者は全体で47名が参加いたしました。兵庫県からは5名が参加いたしました。このところコロナウイルス感染拡大の影響で開催が中止されておりましたが、懇親会もセットにした合同ブロック会議は3年ぶりの開催となりました。会議は伊藤中部ブロック長、名和近畿ブロックの挨拶の後、全解工連井上会長が挨拶に立ち、「解体工事業は将来性があります。東京の超高層建物は5万件ほどあります。スーパーゼネコンを含め解体技術を上げていかないといけない。この業界のレベルアップが必要だ。これからはやるべきことをとらえしっかりとした業界となるよう努力が必要であり、こういった機会を設け努力の積み重ねが重要だ。」と述べられました。その後、内閣府作成の「南海トラフ巨大地震編」の動画を視聴いたしました。

そして会議は、議題の地域情報交換(各府県における近況報告並びに取り組む事例等の紹介)に入り、2府8県の各協会から順次報告や事例紹介等が発表されました。兵庫県からは、上原会長から「平成7年に移阪神淡路大震災が起きました。震災に対する準備はやっておいた方が良い」と述べられました。引続き坂本副会長が令和4年度の活動報告を行いました。その主な内容としては、①公明党を通じて国交省へ建設リサイクルの届け出面積を80㎡から10㎡に引き下げを要望するとともに、アスベスト調査の補助を要望したこと。②石綿面調査者講習会で受講者26名全員が合格したこと。③ワイヤーソー工法見学会を開催したこと。④福岡の「次世会」の若手と兵庫の若手が交流会を開催したこと。防災対策を推進したこと。などを紹介、報告いたしました。そして、全解工連稲村専務理事が、全解工連の動向等について説明を行いました。最後に、次回第52回中部・近畿ブロック合同会議の開催について大阪府が担当で、後日大阪府から案内があることが説明され、会議は終了いたしました。

そして、会場を名古屋マリオネットアソシアホテル16階「サルビアの間」に移し、PM5:30から中部・近畿ブロック合同会議の「懇親会」が盛大に開催されました。

懇親会は3年ぶりとうちの開催でしたので、参加者の皆様は大いに盛り上がり、互いに懇親を深め合い無事終了致しました。愛知県の皆様方お世話をいただき誠に有難うございました。



合同ブロック会議の風景



懇親会の風景